

構築会兵庫支部 平成16年度見学会の概要

平成16年度の見学会は、残暑の和らいだ9月初旬に42名が参加して開催し、来年度の開港に向けて工事が終盤に差しかかりつつある神戸空港と、市街地の地下において鉄道や主要道路など重要構造物と交差する厳しい条件下で施工が進む阪神高速道路神戸山手線(南進部)を見学させていただきました。

神戸空港は、神戸市が設置・管理する第三種空港で、神戸ポートアイランド沖に建設中の2,500mの滑走路を持つ面積272haの海上空港です。平成9年飛行場設置許可、平成11年に空港島の公有水面埋立免許を取得し建設工事に着手、平成13年には外周護岸が概成して埋立工事が本格化しています。航空会社関係では、平成15年にスカイマークエアラインズが就航を表明しました。

建設現場では、旅客ターミナルビルや駐車場などの用地に加え、エプロンや滑走路部分も陸域化して、エプロンの舗装工事や滑走路等の主要施設の地盤改良工事が進行中です。本年4月に空港連絡橋が完成したことを受けてウォーキングイベントを開催、約1,000人が参加したそうです。また、旅客ターミナルビルや管制塔などが着工されており、ポートライナー延伸部分も橋脚や空港駅舎が建設中で、平成17年度の開港に向けて様々な工事が急ピッチで進んでいました。神戸の空から飛行機が離発着する日が来るのが楽しみです。

阪神高速道路神戸山手線は、神戸市西部エリアと神戸都心とのアクセスを強化することにより、慢性的な渋滞が発生している一般道路の混雑緩和を図るもので、平成15年に開通した白川ジャンクション(7号北神戸線との接続部)～神戸長田出入路に続いて、3号神戸線と接続する南進部の建設が進められています。

見学地の神戸高速鉄道との交差部に当たる開削トンネル工事現場は、主要幹線道路の重交通下で、かつ営業中である地下の鉄道構造物を仮受けしながら、その直下に道路構造物を構築するという最難関の工事区間です。道路線形の関係で鉄道と斜め交差となることから、その交差距離が120mに及ぶロングスパンにおいて、鉄道函体の挙動をミリ単位で管理しながら道路のボックスカルバートを構築する工事としては、国内最長・最大規模になるそうです。鉄道函体の下端以下まで掘り下げられた地下空間で、仮受けのための鋼管杭や油圧ジャッキなどを目の当たりにしながら、市街地での土木工事の難しさとそれを克服しようとする技術力の高さをあらためて実感しました。

ご来賓として新田保次土木工学専攻長、橘英三郎建築工学専攻長代理をお迎えし、見学会終了後の懇親会では、38名が神戸タワーサイドホテルに会場を移して会員相互の交流を深めました。